

一般	必修	基礎数学 B I	0007	履修単位	1	2																											大塚隆史, 奥哲史	
一般	必修	基礎数学 B II	0008	履修単位	1		2																										大塚隆史, 奥哲史	
一般	必修	物理 A I	0009	履修単位	1	2																											坪田雅功, 伊藤慎太郎	
一般	必修	物理 A II	0010	履修単位	1		2																										油谷英明, 伊藤慎太郎	
一般	必修	化学 A I	0011	履修単位	1	2																											牧野伸一	
一般	必修	化学 A II	0012	履修単位	1		2																										坪田雅功, 山本和弥	
一般	必修	総合科学 I	0013	履修単位	1	2																											宮内真人, 油谷英明, 伊藤慎太郎	
一般	必修	総合科学 II	0014	履修単位	1		2																										牧野伸一	
一般	必修	保健	0015	履修単位	1	2																											八嶋文雄	
一般	必修	体育 A I	0016	履修単位	1	2																											濱田臣二	
一般	必修	体育 A II	0017	履修単位	1		2																										濱田臣二	
一般	必修	音楽	0018	履修単位	1	2																											馬渡英子	
一般	必修	英語 A I	0019	履修単位	2	4																											久保川晴美, 渡辺真一	
一般	必修	英語 A II	0020	履修単位	2		4																										久保川晴美, 渡辺真一	
一般	必修	英語表現 A I	0021	履修単位	1	2																											奥真裕	
一般	必修	英語表現 A II	0022	履修単位	1		2																										奥真裕	
専門	必修	情報リテラシー	0023	履修単位	1	2																											前川孝司, 白成希乙部由美子, 山本和弥市義弘, 秋本高明	
専門	必修	情報セキュリティ	0024	履修単位	1		2																										太屋岡篤憲, 今地大武古野誠治, 武市義弘	
専門	必修	工学基礎実験 I	0025	履修単位	2	4																											島本憲夫, 種福剛前川孝司, 二宮昌久, 田克翔太郎, 山野和弥小畑大地	

専門	必修	工学基礎実験Ⅱ	0026	履修単位	2	4																郷一 本二 隆慶 宮本 賢太 小畑 大地 中島 レイ 川田 昌克 吉武 靖生 日高 康展 竹原 健司 井上 祐一	
専門	必修	基礎製図A	0027	履修単位	1	2																井上 昌 信	

北九州工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	基礎数学 A I	
科目基礎情報							
科目番号		0005		科目区分	一般 / 必修		
授業形態				単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科		生産デザイン工学科（機械創造システムコース）		対象学年	1		
開設期		前期		週時間数	4		
教科書/教材		「新版基礎数学 改訂版」実教出版、「新版基礎数学演習 改訂版」実教出版					
担当教員		大塚 隆史, 藪奥 哲史					
到達目標							
1. 基礎的な計算（四則演算）ができる。 2. 2次、分数、連立方程式、および1次、2次、連立不等式を解くことができる。 3. 2次関数のグラフをかくことができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		整式・分数式や実数・複素数に関する応用的な問題を自ら工夫して解くことができる		整式・分数式や実数・複素数に関する基本的な問題を解くことができる		整式・分数式や実数・複素数の計算法則が理解できていない	
評価項目2		方程式・不等式に関する定理を使って応用的な問題を解くことができる		方程式・不等式に関する定理を使って基本的な問題を解くことができる		2次方程式が解けるにとどまる	
評価項目3		2次関数の性質を使って応用的な問題を解くことができる		2次関数の性質を使って基本的な問題を解くことができる		2次関数のグラフがかけるにとどまる	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		数を実数から複素数の範囲に拡張し、数や方程式、不等式の持つ基本的概念などの理解を深める。また、基本的な関数の持つ特徴を十分に理解し、目的に応じてそれらの使い分けができるようにする。					
授業の進め方・方法		講義と演習を1セットとして進める。授業の進度に合わせてレポート課題を与える。					
注意点		中学校における数学とは、難度も進める速さも大きく異なるので、そのことを念頭に置いて予習復習に取り組むこと。レポート課題は必ず提出すること。公式や計算技術がしっかり身につくようできるだけたくさん問題演習をすることが大切である。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	整式の演算と因数分解		授業の進め方と評価の仕方について説明する。整式の加法と減法、指数法則と単項式の積が計算できる。		
		2週	整式の演算と因数分解		公式を用いて多項式の展開、因数分解ができる。		
		3週	整式の演算と因数分解		置き換え等の工夫をして多項式の因数分解ができる。		
		4週	整式の除法 分数式の演算		整式の除法が計算でき、整式の約数や倍数を求めることができる。分数式の加減乗除が計算できる。		
		5週	分数式の演算		繁分数式の計算及び除法を用いた分数式の展開ができる。		
		6週	実数の計算		実数の絶対値と平方根の計算ができる。		
		7週	複素数の計算 複素平面		複素数の加減乗除が計算できる。 複素数の絶対値の計算ができる。		
		8週	中間試験				
	2ndQ	9週	答案返却/ 2次方程式		中間試験の解説と振り返りを行う。 2次方程式を解くことができる。 判別式を利用して問題を解くことができる。		
		10週	2次方程式 2次関数とグラフ		解と係数の関係を利用して問題を解くことができる。 関数の概念を理解する。		
		11週	2次関数とグラフ		2次関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。		
		12週	2次関数の決定 2次関数の最大・最小		条件を満たす2次関数を求めることができる。 2次関数の最大値・最小値に関する問題を解くことができる。		
		13週	2次関数のグラフと2次方程式 不等式の基本性質・1次不等式		2次関数を用いて2次方程式を解くことができる。 1次不等式を解くことができる。		
		14週	グラフと2次不等式		2次関数を用いて2次不等式の問題を解くことができる。		
		15週	連立不等式 絶対値を含む方程式・不等式		連立不等式を解くことができる。 絶対値を含む不等式を解くことができる。		
		16週	定期試験				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	数学	数学	数学	分数式の加減乗除の計算ができる。		3	
				実数の絶対値について理解し、計算ができる。		3	
				分母の有理化等の平方根の計算ができる。		3	

				複素数の相等を理解し、加減乗除及び絶対値の計算ができる。	3	
				解の公式等を利用して、二次方程式を解くことができる。	3	
				連立方程式を解くことができる。	3	
				一次不等式及び二次不等式を解くことができる。	3	
				二次関数の性質及びグラフを理解し、最大値や最小値を求めることができる。	3	

評価割合						
	試験	小テスト等	演習・レポート	発表	相互評価	合計
総合評価割合	70	0	30	0	0	100
基礎的能力	70	0	30	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

北九州工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	保健	
科目基礎情報							
科目番号		0015		科目区分	一般 / 必修		
授業形態				単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科		生産デザイン工学科（機械創造システムコース）		対象学年	1		
開設期		前期		週時間数	2		
教科書/教材		現代高等保健体育（大修館書店）衛藤隆　友添秀則ほか					
担当教員		八嶋 文雄					
到達目標							
生涯にわたり健康で安全な生活を送ることができるように、自らの健康を適切に管理し改善していくための関心と意欲を高め、基本的な知識を身につけることによって思考力と判断力を培う。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		自らの健康を適切に管理し改善していくための関心と意欲を十分に高めることができた。		自らの健康を適切に管理し改善していくための関心と意欲が概ねある。		自らの健康を適切に管理し改善していくための、基本的な知識を習得することができず努力を要する。	
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		健康の考え方や体力について理解を深め、日常生活で直面する健康問題や精神疾患などの現代の健康問題について学ぶ。 また、外傷・障害と応急手当てなどについても学ぶ。					
授業の進め方・方法		授業の進め方と方法は、講義とプリント問題をセットで行う。プリントは毎時間配布するので整理して保管すること。 。授業内容は、教科書の単元のなかから学生の実態や社会の状況に応じて取り扱う。また、グループ学習や調べ学習、ビデオ教材も必要に応じて活用する。					
注意点		プリント問題の際は教科書を使うので教科書を忘れないこと。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス、健康の考え方や成り立ち、私たちの健康のすがた。		さまざまな健康の考え方や成り立ちについて理解する。 わが国の健康水準の変化とその背景や、現在の健康問題について理解する。		
		2週	生活習慣病の予防と回復、がんの原因と予防、がんの治療と回復。		生活習慣病の種類と要因、がんについて理解する。		
		3週	動と健康、スポーツにおける技能と体力、スポーツにおける技術と戦術、技能の上達過程と練習。骨格と筋肉の名称。		健康と運動、運動における筋活動、体力についての知識を深める。		
		4週	効果的な動きのメカニズム、体力トレーニング、運動やスポーツでの安全の確保。		基本的な体育理論の知識を深める。		
		5週	小テスト 休養・睡眠と健康		健康と休養や睡眠の関係について理解する。		
		6週	食事と健康・肥満		健康的な食事のとり方と肥満について理解する。		
		7週	意思決定・行動選択		適切な意思決定・行動選択について知識を深める。		
		8週	中間試験				
	2ndQ	9週	喫煙と健康		喫煙者やその周辺の人に起こる害について理解する。		
		10週	飲酒と健康		飲酒による健康への影響や社会問題について理解する。		
		11週	薬物乱用と健康		薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響について理解する。		
		12週	妊娠・出産と健康		受精、妊娠、出産についての知識を深める。		
		13週	小テスト 精神疾患の特徴・予防、精神疾患からの回復		精神疾患の特徴と予防、治療について理解する。		
		14週	応急手当の意義とその基本、日常的な応急手当、心肺蘇生法		応急手当の意義や手順、方法について理解する。		
		15週	期末試験				
		16週	答案返却				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
分野横断的能力	基盤的資質・能力	自己理解	自己理解	自分の経験や活動を振り返り、自分の考え方や価値観などを認知できる。		1	
				自己理解に基づき必要な対応や行動を検討できる。		1	
		自己管理と責任ある行動	自己管理と責任ある行動	自分に求められる役割や行動を把握し、確認できる。		1	
				やるべきことを実行するための具体的行動や計画を考えることができる。		1	

評価割合							
	試験	小テスト	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	20	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

北九州工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	体育 A I	
科目基礎情報							
科目番号		0016		科目区分	一般 / 必修		
授業形態				単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科		生産デザイン工学科（機械創造システムコース）		対象学年	1		
開設期		前期		週時間数	2		
教科書/教材							
担当教員		濱田 臣二					
到達目標							
1.各種運動の知識・技能を身につけ、運動の楽しさを味わう。 2.授業を通じてグループワーク、協調性、責任感を身につける。 3.自己の体力、能力を知ることにより生涯にわたる豊かなスポーツライフの基礎を知る。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		バレーボールのパス・サーブ・アタックがスムーズな動きでできる。		的確なパスとコート内にサーブが入る。		オーバーハンドパスとアンダーハンドパスが的確にできない。	
評価項目2		バスケットボールで的確な状況判断にもとづいたプレーができる。		チームメンバーの動きに応じたパス等ができる。		ボールを持ったら、立ち止まって、相手にすぐにボールを取られる。	
評価項目3		それぞれの体操について正しく理解して、完全に習得して実践できる。		それぞれの体操について理解しているが、習得が不十分である。		それぞれの体操についての理解と習得が不十分である。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的、計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、他者との関りを理解しながら明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。					
授業の進め方・方法		各自が役割を理解して、責任感を持ち協調性のある活動を行うことを主体とする。 運動の特性や学生の実態に応じて展開する。 必要に応じて講義、視聴覚教材も利用する。					
注意点		貴重品の管理を各自でしっかりと行うこと。（状況に応じて担当教員に申し出ること） 学校指定の体操服・シューズを着用すること。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション		本校1年における体育授業の目的や到達目標について理解する。		
		2週	体づくり運動		自分の身体について、体調を感じながら健康に関する知識を深め、体力作りにつながる運動を理解する。		
		3週	準備体操 1		本校の準備体操について、それぞれの運動について理解する。		
		4週	準備体操 2		準備体操の 1 ～ 5 を習得する。		
		5週	準備体操 3		準備体操の 6 ～ 1 0 を習得する。		
		6週	準備体操 まとめ		準備体操を習得して、全体で合わせてできるようにする。		
		7週	集団行動 1		集団行動の意義を理解し、自分の姿勢を整え、合理的な動きを身に付ける。		
		8週	集団行動 2		全体での隊形の作り方を理解し、集団における合理的な動きを身に付ける。		
	2ndQ	9週	バレーボール パスの基礎練習		オーバーハンドパス、アンダーハンドパスについて理解する。		
		10週	パスの応用練習		状況に応じたパスについて理解し習得する。		
		11週	パスの総合練習		グループにおける臨機応変なパスについて理解する。		
		12週	サーブ練習		アンダーハンドパス、フローターサーブを習得する。		
		13週	アタック練習		強弱を問わず、ジャンプして片手でのアタックを習得する。		
		14週	簡易ゲーム		簡易ゲームの中でルールを理解し、チームでの協力的態度を身に付ける。		
		15週	ゲームの実際		チームのメンバーの特性から、ゲームにおける戦術を理解し、各自の技能を高める。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
分野横断的能力	汎用的技能	チームワークとリーダーシップ	チームワークとリーダーシップ	チーム活動において意見の相違や対立を踏まえて合意形成に向けて行動できる。		1	
				チームの協働関係の形成、維持、向上を促すための行動ができる。		1	

				チーム活動の目標共有を図り、目標達成に向けた行動を実践し、 また、チームの協働を促進するための行動ができる。	1	
評価割合						
	技術・技能試験	協力的学習				合計
総合評価割合	50	50	0	0	0	100
基礎的能力	50	50	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

北九州工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	体育 A II	
科目基礎情報							
科目番号		0017		科目区分		一般 / 必修	
授業形態				単位の種別と単位数		履修単位: 1	
開設学科		生産デザイン工学科（機械創造システムコース）		対象学年		1	
開設期		後期		週時間数		2	
教科書/教材							
担当教員		濱田 臣二					
到達目標							
1.各種運動の知識・技能を身につけ、運動の楽しさを味わう。 2.授業を通じてグループワーク、協調性、責任感を身につける。 3.自己の体力、能力を知ることにより生涯にわたる豊かなスポーツライフの基礎を知る。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		バレーボールのパス・サーブ・アタックがスムーズな動きでできる。		的確なパスとコート内にサーブが入る。		オーバーハンドパスとアンダーハンドパスが的確にできない。	
評価項目2		バスケットボールで的確な状況判断にもとづいたプレーができる。		チームメンバーの動きに応じたパス等ができる。		ボールを持ったら、立ち止まって、相手にすぐにボールを取られる。	
評価項目3		それぞれの体操について正しく理解して、完全に習得して実践できる。		それぞれの体操について理解しているが、習得が不十分である。		それぞれの体操についての理解と習得が不十分である。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的、計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、他者との関りを理解しながら明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。					
授業の進め方・方法		各自が役割を理解して、責任感を持ち協調性のある活動を行うことを主体とする。運動の特性や学生の実態に応じて展開する。必要に応じて講義、視聴覚教材も利用する。					
注意点		貴重品の管理を各自でしっかりと行うこと。（状況に応じて担当教員に申し出ること） 学校指定の体操服・シューズを着用すること。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	後期オリエンテーション 体ほぐし運動		後期種目の内容について理解する。 体調を整える運動について理解し習得する。		
		2週	バレーボール リーグ戦 1		チームワークと各自の技能を高める。		
		3週	リーグ戦 2		チームワークと各自の技能を高める。		
		4週	リーグ戦 3		技能の自己評価をしながら、チームの反省を行う。		
		5週	バスケットボール パス練習		パスの種類とそれらの使い方について理解し習得する。		
		6週	シュート練習		セットシュート、ドリブルシュートについて理解し習得する。		
		7週	フェイクを入れたプレー		フェイクの活用について理解し習得する。		
		8週	少数での攻防練習		ディフェンスとオフェンスにおける各自の動き方を理解する。		
	4thQ	9週	簡易ゲーム		簡易ゲームの中でルールを理解し、チームでの協力的態度を身に付ける。		
		10週	ゲームの実際		ゲームにおける戦術を理解し、各自の技能を高める。		
		11週	リーグ戦 1		チームワークと各自の技能を高める。		
		12週	リーグ戦 2		チームワークと各自の技能を高める。		
		13週	リーグ戦 3		チームワークと各自の技能を高める。		
		14週	リーグ戦 4		チームワークと各自の技能を高める。		
		15週	リーグ戦 5		技能の自己評価をしながら、チームの反省を行う。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
分野横断的能力	汎用的技能	チームワークとリーダーシップ	チームワークとリーダーシップ	チーム活動において意見の相違や対立を踏まえて合意形成に向けて行動できる。	1		
				チームの協働関係の形成、維持、向上を促すための行動ができる。	1		
				チーム活動の目標共有を図り、目標達成に向けた行動を実践し、また、チームの協働を促進するための行動ができる。	1		
	基盤的資質・能力	主体性	主体性	自分が果たすべき役割や行動について認識できる。	1		
				自分が果たすべき役割や行動を実践できる。	1		

評価割合

	技術・技能試験	協力の学習				合計
総合評価割合	50	50	0	0	0	100
基礎的能力	50	50	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

北九州工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	英語 A I	
科目基礎情報							
科目番号	0019			科目区分	一般 / 必修		
授業形態				単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	生産デザイン工学科（機械創造システムコース）			対象学年	1		
開設期	前期			週時間数	4		
教科書/教材	My Way English Communication I 及び 準拠ワークブック（スタンダード）（三省堂） / はじめてのTOEIC Bridge L&Rテスト 完全模試3回分（夏休み課題）（アスク出版） / Listening Platform I（いいずな書店）						
担当教員	久保川 晴美,渡辺 真一						
到達目標							
1. 中学既習レベルの英単語を理解できる。 2. 文科省検定教科書高校1年レベルの英文について、辞書を使って内容理解ができる。 3. 理解を終えた英文を、聞き手にわかりやすく音読できる。 4. TOEIC Bridgeで65点相当の点数を取ることができる。 5. 英検準2級に合格できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	中学校既習レベルの英単語、教科書や単語集で学習した重要語句を、主な派生語も含めて理解し、正確に綴れる。			中学校既習レベルの英単語、教科書や単語集で学習した重要語句を、主な派生語も含めて理解している。		中学校既習レベルの英単語、教科書や単語集で学習した重要語句に、理解できないものが多く残っている。	
評価項目2	文科省検定教科書高校1年レベルの英文について、辞書を使って内容理解ができる。			文科省検定教科書高校1年レベルの英文について、辞書を使ってほぼ内容理解ができる。		文科省検定教科書高校1年レベルの英文について、辞書を使っても内容理解ができない。	
評価項目3	教科書で学習した文法事項や構文を適切な文脈において理解し、自ら運用、音読できる。			教科書で学習した文法事項や構文を文脈の中で理解、音読できる。		教科書で学習した文法事項や構文に理解できないものが多く残っている。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本授業では、中学既習レベルの英語力を安定させ、「読み」「書き」「話し」「聞く」の4技能を総合的に向上させることを目的とする。各課の単語習得(意味・発音・アクセント)・熟語習得・文法事項理解・内容理解を通じて、語彙を増やし英語の音声に親しみ、高校レベルの英語学習へのしっかりした下地を作る。						
授業の進め方・方法	各課の予習(単語調べ、本文全体の通読など)は必須とする。適宜、小テストや各課の復習テストなどを課す。						
注意点	辞書を必ず持参すること。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス、中学校までの既出事項の確認		予習復習の仕方、授業の進め方、テストの説明などを理解する。基本語彙・基本文法事項の習得具合の確認、辞書指導、発音指導など		
		2週	Lesson 1 (1), Lesson 2 (1)		現在形・過去形/進行形/ SVO(O=that節) 助動詞 / 受け身 / 助動詞のついた受け身		
		3週	Lesson 1 (2), Lesson 2 (2)		現在形・過去形/進行形/ SVO(O=that節) 助動詞 / 受け身 / 助動詞のついた受け身		
		4週	Lesson 1 (3), Lesson 2 (3)		現在形・過去形/進行形/ SVO(O=that節) 助動詞 / 受け身 / 助動詞のついた受け身		
		5週	Lesson 1 (4), Lesson 2 (4)		現在形・過去形/進行形/ SVO(O=that節) 助動詞 / 受け身 / 助動詞のついた受け身		
		6週	Lesson 3 (1), Lesson 4 (1)		動名詞 / to不定詞の名詞的用法・副詞的用法 / to不定詞の形容詞的用法 現在完了形 / 現在完了進行形 / 過去完了形		
		7週	Lesson 3 (2), Lesson 4 (2)		動名詞 / to不定詞の名詞的用法・副詞的用法 / to不定詞の形容詞的用法 現在完了形 / 現在完了進行形 / 過去完了形		
		8週	中間試験		1〜7週までの内容を網羅した試験により、授業内容の理解の定着を図る。		
	2ndQ	9週	Lesson 3 (3), Lesson 4 (3)		動名詞 / to不定詞の名詞的用法・副詞的用法 / to不定詞の形容詞的用法 現在完了形 / 現在完了進行形 / 過去完了形		
		10週	Lesson 3 (4), Lesson 4 (4)		動名詞 / to不定詞の名詞的用法・副詞的用法 / to不定詞の形容詞的用法 現在完了形 / 現在完了進行形 / 過去完了形		
		11週	Lesson 3 (5), Lesson 4 (5)		動名詞 / to不定詞の名詞的用法・副詞的用法 / to不定詞の形容詞的用法 現在完了形 / 現在完了進行形 / 過去完了形		
		12週	Lesson 5 (1), Lesson 6 (1)		関係代名詞(主格) / 関係代名詞(目的格) / 関係代名詞 what / It is ... to不定詞 現在分詞の形容詞的用法 / 過去分詞の形容詞的用法 / 分詞構文 / It is ... that		

		13週	Lesson 5 (2), Lesson 6 (2)	関係代名詞(主格) / 関係代名詞(目的格) / 関係代名詞 what / It is ... to不定詞 現在分詞の形容詞的用法 / 過去分詞の形容詞的用法 / 分詞構文 / It is ... that
		14週	Lesson 5 (3), Lesson 6 (3)	関係代名詞(主格) / 関係代名詞(目的格) / 関係代名詞 what / It is ... to不定詞 現在分詞の形容詞的用法 / 過去分詞の形容詞的用法 / 分詞構文 / It is ... that
		15週	9～14週までの内容のまとめ	9～14週までの内容を確認・復習する。
		16週	定期試験	9～14週までの内容を網羅した試験により、理解の定着を図る。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文社会科学	英語	英語	聞き手に正しく伝わるよう、語・句・文における強勢、文におけるリズム・イントネーション、音のつながり・区切りを意識しながら明瞭に音読あるいは発話できる。	1	
				中学校までに学習した語彙の定着を図り、高等学校指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な語彙を習得して適切に運用できる。	1	
				中学校までに学習した文構造及び文法事項に加え、高等学校学習指導要領に準じた文構造及び文法事項について習得して適切に運用できる。	1	
				日常的な話題や社会的な話題について、はっきりとした発音で、調整された速さで話された内容から、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握できる。	2	
				日常的な話題や社会的な話題について、基本的な表現を用いて、情報や考え、気持ちなどを話すことができる。	2	
				日常的な話題や社会的な話題について平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握して必要な情報を読み取り、書き手の意図、概要や要点を把握できる。	2	
				日常的な話題や社会的な話題について、自分の意見や感想を整理し、情報や考え、気持ちなどを伝える文章を書くことができる。	2	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢を持ち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	2	
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト）を適切に用いることができる。	2	
				自分の専門分野などの予備知識のある事柄や関心のあるトピックについて、話の展開や話者の意図に注意しながら必要な情報を聞き取り、概要や要点を把握できる。	2	
				英語でのディスカッション（必要に応じてディベート）を想定して、意見や主張、課題の解決策などをやり取りできる。	2	
				英語でディスカッション（必要に応じてディベート）を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	2	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	2	
				関心のあるトピックについて、意見や主張を適切な理由や根拠とともに伝える複数の段落を書くことができる。	2	
				自分の専門分野に関する口頭発表などを念頭に置き、関心のあるトピックについて、平易な英語でのプレゼンテーションや内容に関する簡単な質疑応答のやりとりができる。	2	
				関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	2	
				英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	2	

評価割合

	試験	小テスト等	演習・レポート	合計
総合評価割合	60	15	25	100
基礎的能力	60	15	25	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

北九州工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	英語 A II	
科目基礎情報							
科目番号		0020		科目区分	一般 / 必修		
授業形態				単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科		生産デザイン工学科（機械創造システムコース）		対象学年	1		
開設期		後期		週時間数	4		
教科書/教材		My Way English Communication I 及び 準拠ワークブック（スタンダード）（三省堂） / Listening Platform I（いいすな書店）					
担当教員		久保川 晴美,渡辺 真一					
到達目標							
1. 中学既習レベルの英単語を理解できる。 2. 文科省検定教科書高校1年レベルの英文について、辞書を使って内容理解ができる。 3. 理解を終えた英文を、聞き手にわかりやすく音読できる。 4. TOEIC Bridgeで65点相当の点数を取ることができる。 5. 英検準2級に合格できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		中学校既習レベルの英単語、教科書や単語集で学習した重要語句を、主な派生語も含めて理解し、正確に綴れる。		中学校既習レベルの英単語、教科書や単語集で学習した重要語句を、主な派生語も含めて理解している。		中学校既習レベルの英単語、教科書や単語集で学習した重要語句に、理解できないものが多く残っている。	
評価項目2		文科省検定教科書高校1年レベルの英文について、辞書を使って内容理解ができる。		文科省検定教科書高校1年レベルの英文について、辞書を使ってほぼ内容理解ができる。		文科省検定教科書高校1年レベルの英文について、辞書を使っても内容理解ができない。	
評価項目3		教科書で学習した文法事項や構文を適切な文脈において理解し、自ら運用、音読できる。		教科書で学習した文法事項や構文を文脈の中で理解、音読できる。		教科書で学習した文法事項や構文に理解できないものが多く残っている。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		本授業では、中学既習レベルの英語力を安定させ、「読み」「書き」「話し」「聞く」の4技能を総合的に向上させることを目的とする。各課の単語習得(意味・発音・アクセント)・熟語習得・文法事項理解・内容理解を通じて、語彙を増やし英語の音声に親しみ、高校レベルの英語学習へのしっかりした下地を作る。					
授業の進め方・方法		各課の予習(単語調べ、本文全体の通読など)は必須とする。 適宜、小テストや各課の復習テストなどを課す。					
注意点		辞書を必ず持参すること。 TOEIC Bridgeの成績は評価に加味する。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	Lesson 5 (4), Lesson 6 (4)		関係代名詞(主格) / 関係代名詞(目的格) / 関係代名詞 what / It is ... to不定詞 現在分詞の形容詞的用法 / 過去分詞の形容詞的用法 / 分詞構文 / It is ... that		
		2週	Lesson 5 (5), Lesson 6 (5)		関係代名詞(主格) / 関係代名詞(目的格) / 関係代名詞 what / It is ... to不定詞 現在分詞の形容詞的用法 / 過去分詞の形容詞的用法 / 分詞構文 / It is ... that		
		3週	Lesson 7 (1), Lesson 8 (1)		関係副詞where / 関係副詞when / 関係副詞why / 比較級・最上級 条件を表すif節 / 仮定法過去 / I wish ~ / as if ~		
		4週	Lesson 7 (2), Lesson 8 (2)		関係副詞where / 関係副詞when / 関係副詞why / 比較級・最上級 条件を表すif節 / 仮定法過去 / I wish ~ / as if ~		
		5週	Lesson 7 (3), Lesson 8 (3)		関係副詞where / 関係副詞when / 関係副詞why / 比較級・最上級 条件を表すif節 / 仮定法過去 / I wish ~ / as if ~		
		6週	Lesson 7 (4), Lesson 8 (4)		関係副詞where / 関係副詞when / 関係副詞why / 比較級・最上級 条件を表すif節 / 仮定法過去 / I wish ~ / as if ~		
		7週	Lesson 7 (5), Lesson 8 (5)		関係副詞where / 関係副詞when / 関係副詞why / 比較級・最上級 条件を表すif節 / 仮定法過去 / I wish ~ / as if ~		
		8週	中間試験		1～7週までの内容を網羅した試験により、授業内容の理解の定着を図る。		
	4thQ	9週	Lesson 9 (1), Lesson 10 (1)		SV01O2(O2=how to~) / SVO + to不定詞 / SVOC(C=動詞の原形) / SVOC(C=現在分詞)		
		10週	Lesson 9 (2), Lesson 10 (2)		SV01O2(O2=how to~) / SVO + to不定詞 / SVOC(C=動詞の原形) / SVOC(C=現在分詞)		
		11週	Lesson 9 (3), Lesson 10 (3)		SV01O2(O2=how to~) / SVO + to不定詞 / SVOC(C=動詞の原形) / SVOC(C=現在分詞)		
		12週	Lesson 9 (4), Lesson 10 (4)		SV01O2(O2=how to~) / SVO + to不定詞 / SVOC(C=動詞の原形) / SVOC(C=現在分詞)		

		13週	Lesson 9 (5), Lesson 10 (5)	SVO102(O2=how to～) / SVO+to不定詞/ SVOC(C=動詞の原形) / SVOC(C=現在分詞)
		14週	Reading	物語の読解・鑑賞
		15週	9～14週までの内容のまとめを行う。	既出の文法項目について復習する。
		16週	定期試験	9～14週までの内容を網羅した試験により、理解の定着を図る。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文社会科学	英語	英語	聞き手に正しく伝わるよう、語・句・文における強勢、文におけるリズム・イントネーション、音のつながり・区切りを意識しながら明瞭に音読あるいは発話できる。	1	
				中学校までに学習した語彙の定着を図り、高等学校指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な語彙を習得して適切に運用できる。	1	
				中学校までに学習した文構造及び文法事項に加え、高等学校学習指導要領に準じた文構造及び文法事項について習得して適切に運用できる。	1	
				日常的な話題や社会的な話題について、はっきりとした発音で、調整された速さで話された内容から、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握できる。	2	
				日常的な話題や社会的な話題について、基本的な表現を用いて、情報や考え、気持ちなどを話すことができる。	2	
				日常的な話題や社会的な話題について平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握して必要な情報を読み取り、書き手の意図、概要や要点を把握できる。	2	
				日常的な話題や社会的な話題について、自分の意見や感想を整理し、情報や考え、気持ちなどを伝える文章を書くことができる。	2	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢を持ち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	2	
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト）を適切に用いることができる。	2	
				自分の専門分野などの予備知識のある事柄や関心のあるトピックについて、話の展開や話者の意図に注意しながら必要な情報を聞き取り、概要や要点を把握できる。	2	
				英語でのディスカッション（必要に応じてディベート）を想定して、意見や主張、課題の解決策などをやり取りできる。	2	
				英語でディスカッション（必要に応じてディベート）を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	2	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	2	
				関心のあるトピックについて、意見や主張を適切な理由や根拠とともに伝える複数の段落を書くことができる。	2	
				自分の専門分野に関する口頭発表などを念頭に置き、関心のあるトピックについて、平易な英語でのプレゼンテーションや内容に関する簡単な質疑応答のやりとりができる。	2	

評価割合

	試験	小テスト・TOEIC Bridge	演習・レポート	合計
総合評価割合	60	15	25	100
基礎的能力	60	15	25	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0